

2. エネルギーミックスの選択肢提示の背景

(1) エネルギー基本計画の見直しに求められる視点

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所における事故を発端として、原子力が抱えるリスクが顕在化するとともに、電力をはじめとするエネルギーの供給システムの脆弱性や歪みが露呈した。特に、原子力発電事故による被害の実態を踏まえ、原子力発電について、「福島のような事故を二度と繰り返してはならない」という強い決意の下、今後のエネルギー政策については、「国民の安全の確保」を最優先とした上で、以下の視点をより重視して推進していく必要がある。

①国民が安心できる持続可能なエネルギー政策

(国民の信頼の回復)

②「需要サイド」を重視したエネルギー政策

(電源等の「選択肢」、省エネ・節電等の適切なインセンティブの付与を通じた需要構造の改革、デマンドサイドから供給構造を改革)

③「消費者」・「生活者」や「地域」を重視したエネルギー政策

(「消費者」・「生活者」や「地域」の主体的参加、未利用エネルギーの活用を通じた地域活性化)

④国力を支え、世界に貢献するエネルギー政策

(産業競争力の維持・強化、エネルギー安全保障の確保、安定的かつ低廉なエネルギー供給、国際エネルギー情勢等を踏まえた我が国の責任、強靱なエネルギー政策)

⑤多様な電源・エネルギー源を活用するエネルギー政策

(大規模集中型の電力システムの脆弱性の克服、市場全体での効率的利用)